

## 間質性腎炎

英語名：Interstitial nephritis

同義語：尿細管間質性腎炎

### A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

腎臓に炎症が起こり機能が低下する「<sup>かんしつせいじんえん</sup>間質性腎炎」は、主に抗生物質、<sup>げねつしょうえんちんつうやく</sup>抗結核薬、解熱消炎鎮痛薬、<sup>しょうかせいかいようやく</sup>抗てんかん薬、消化性潰瘍薬、痛風治療薬などの医薬品の服用により引き起こされる場合があります。

医薬品を服用後に、次のような症状がみられた場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

「<sup>ほっしん</sup>発熱」、「<sup>ほっしん</sup>発疹」、「<sup>かんせつ</sup>関節の痛み」、「<sup>はき</sup>はき気、<sup>おうと</sup>嘔吐、下痢、腹痛などの消化器症状」など

また、これらの症状が持続したり、その後に「<sup>むくみ</sup>むくみ」、「<sup>りょう</sup>尿量が少なくなる」などが見られた場合は、すぐに医療機関を受診してください。

## 1. <sup>かんしつせいじんえん</sup>間質性腎炎とは？

間質性腎炎は、腎臓の尿細管やその周囲の組織（<sup>かんしつ</sup>間質）に炎症を起こす病気です。全身性のアレルギー反応による発熱、発疹、関節の痛み、はき気、嘔吐、下痢、腹痛などの症状など、一般的なかぜのような症状もみられます。進行すると腎機能が低下して、尿量が減ったりむくんだりします。さらに進んで症状が重くなると、透析療法が必要となる場合があります。

すべての医薬品が原因となる可能性がありますが、主に抗生物質、抗結核薬、解熱鎮痛薬、抗てんかん薬、消化性潰瘍薬、痛風治療薬で多いとされており、医薬品などに対するアレルギー反応がその発症の原因と考えられています。

治療は、早期の場合は医薬品の服用を中止すれば特別な治療をしなくても治ることが多く、早期発見と早期治療が重要です。中等度以上の重い場合には、通常、ステロイド薬を短期間使用します。

## 2. 早期発見と早期対応のポイント

原因と考えられる医薬品の服用後、2 週間以内に発症することが多いのですが、1 ヶ月以上経ってから起こることもあります。

「発熱」、「発疹」、「関節痛」、「はき気、嘔吐、下痢、腹痛などの消化器症状」がみられ、その症状が持続したり、その後「むくみ」や「尿量が少なくなる」、「体重減少」などがみられたりする場合であって、  
医薬品を服用している場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

また、連絡の際には、服用した医薬品の種類、服用からどのくらい

たっているかなどを医師・薬剤師に伝えてください。

※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます。 <http://www.info.pmda.go.jp/>

